

(1) 人口

●現状

- 人口は増加が続いており、平成27年時点で約5万5千人となっている。
- 世帯数も増加が続いているが、1世帯あたり人員は減少している。
- 近年の地域別人口の増減を見ると蜂屋地区や加茂野地区で人口が増加している。(区画整理事業による宅地開発、加茂野地区では民間宅地開発に伴う人口増加)
- 年齢3区分別人口割合を見ると、65歳以上比率が増加し、15～64歳比率が低下しているが、平成27年時点で65歳以上人口比率は22.5%と県平均よりも低い。(岐阜県平均28.1%)

●将来推計

- 国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2025年をピークに人口減少に転じ、2040年の人口は54,106人と推計。
- 年齢階層別人口は、65歳以上の高齢化率が高まり、現在の22.5%が2040年には30.8%まで上昇する。



図5 市内地区区分図



図1 人口の推移 (5年毎)

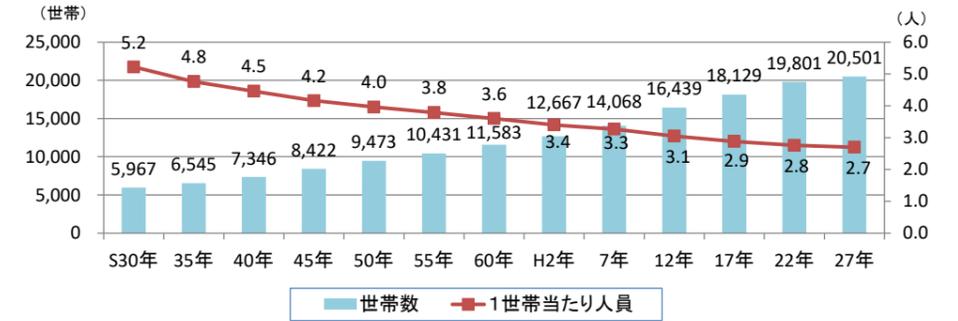


図2 世帯数の推移 (5年毎)



図3 年齢階層別人口割合の推移 (5年毎)

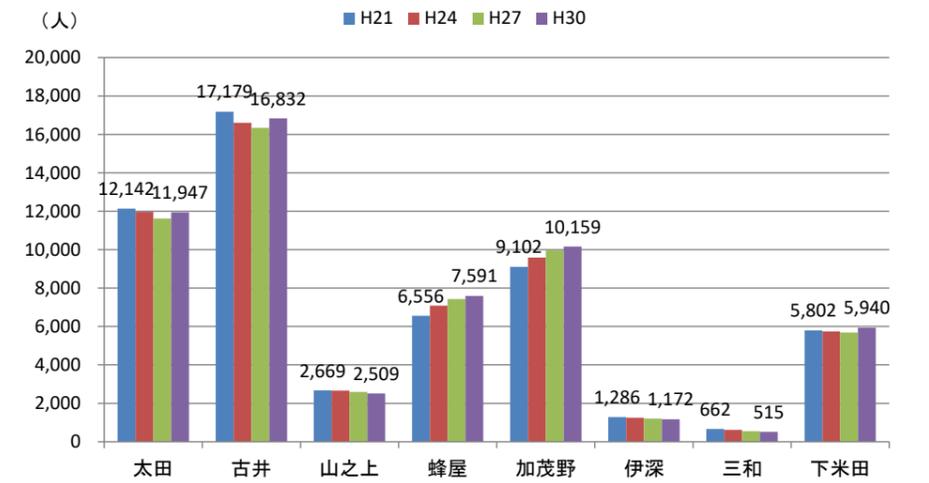
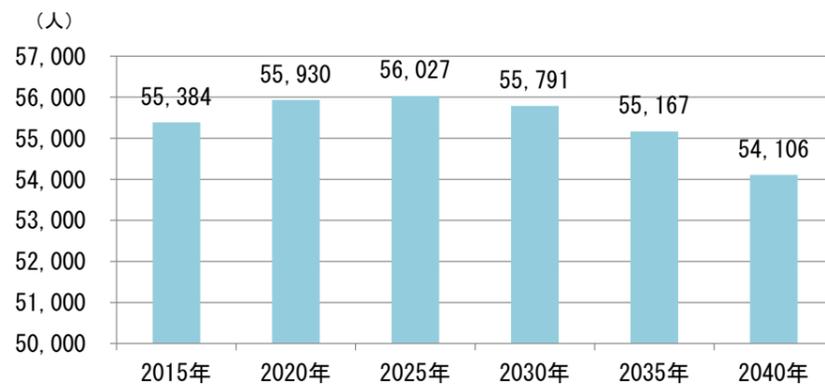
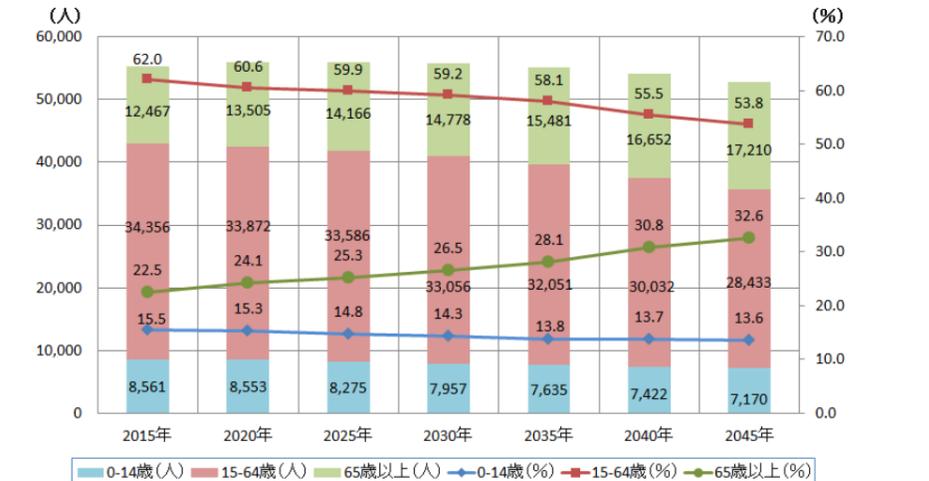


図4 地区別人口の推移 (3年毎)



出典：日本の地域別将来推計人口 (平成30年推計), 国立社会保障・人口問題研究所  
図6 人口推計 (5年毎)



出典：日本の地域別将来推計人口 (平成30年推計), 国立社会保障・人口問題研究所  
図7 人口推計 (年齢階層別、5年毎)

●人口分布

(DIDの状況)

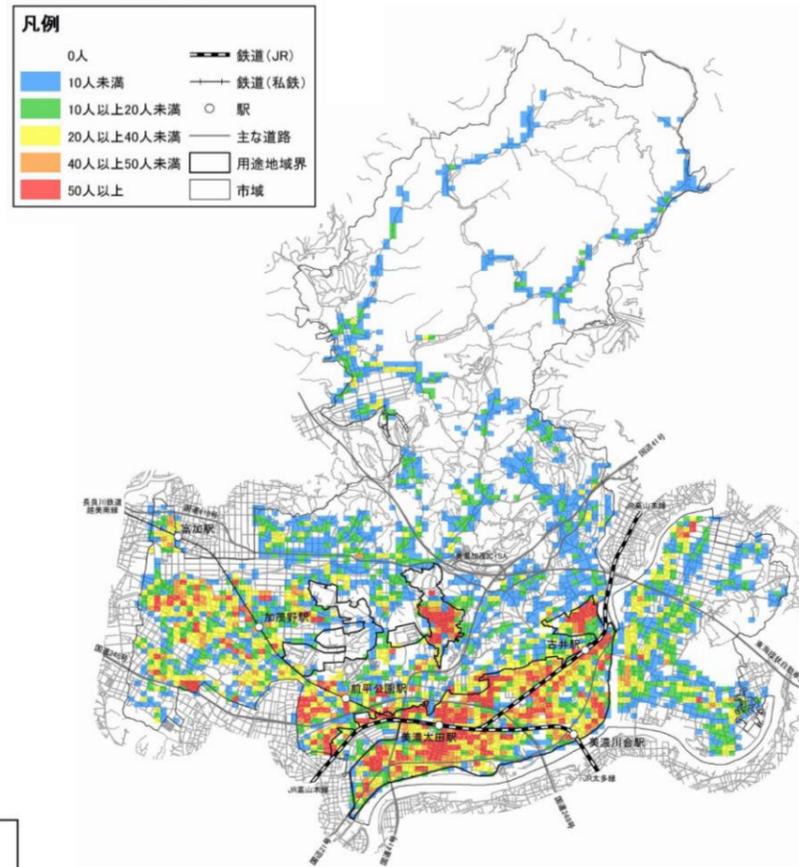
- DID面積は徐々に広がっており、人口密度も低下傾向にある。

(平成27年(2015年)の状況)

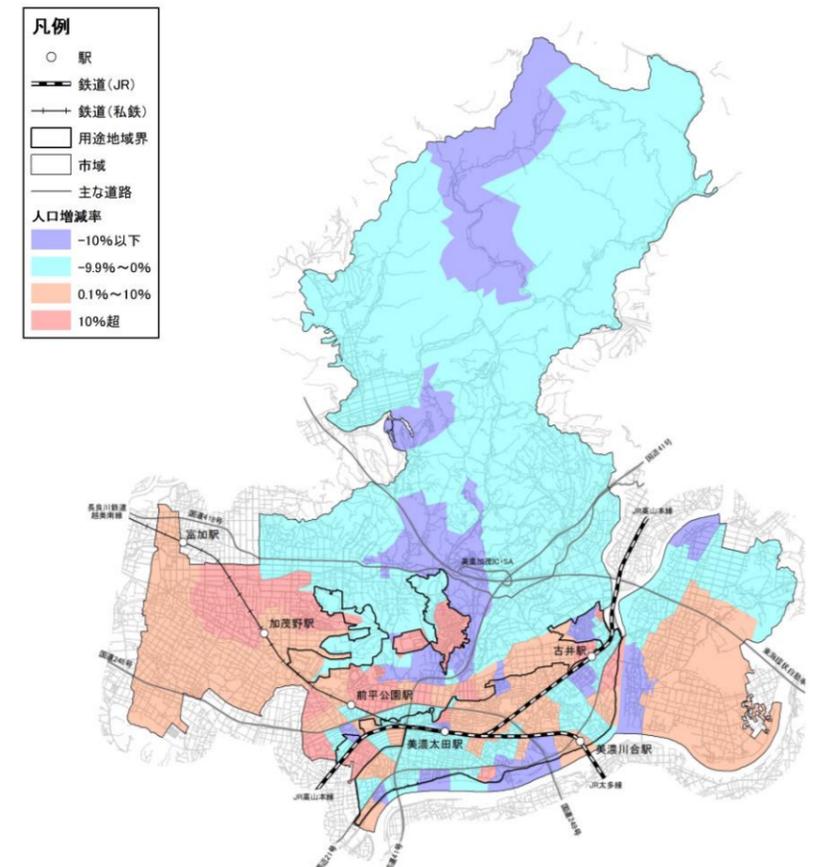
- 現在は、美濃太田駅周辺や古井駅周辺(森山町)、中部台などに人口が集中している。
- 太田(山手)地区や加茂野地区では用途地域が指定されていない場所でも人口が集中している場所が点在している。
- 65歳以上人口は、美濃太田駅周辺や古井駅周辺(森山町)で人口が集中している。

(平成52年(2040年)の状況)

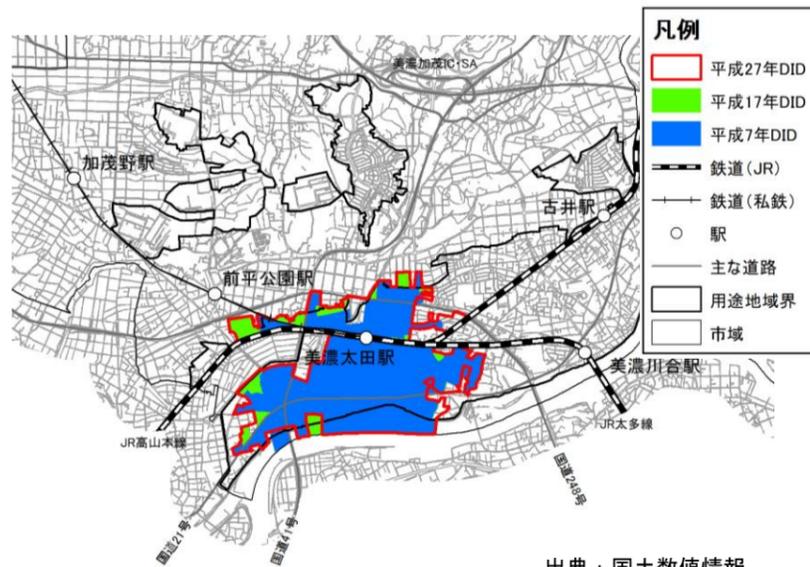
- 平成27年時点と比べると人口は美濃太田駅南側や古井駅周辺など古くからの市街地や市の北部で減少し、加茂野地区などでは増加する。
- 65歳以上人口は、全体的に増加し、特に市の南部、中部では増加率の高い地区が広がっている。



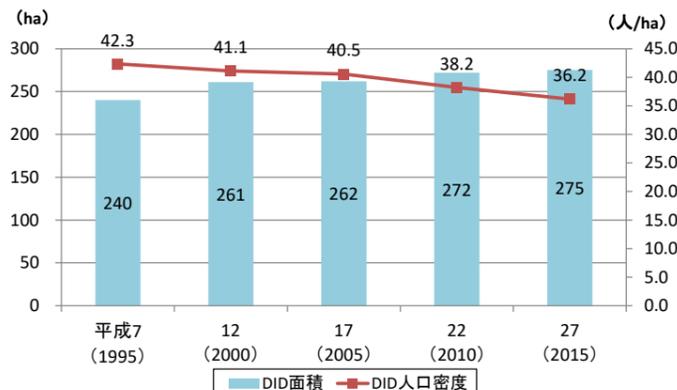
出典：国勢調査データより作成  
図10 100mメッシュ人口分布(平成27年(2015年))



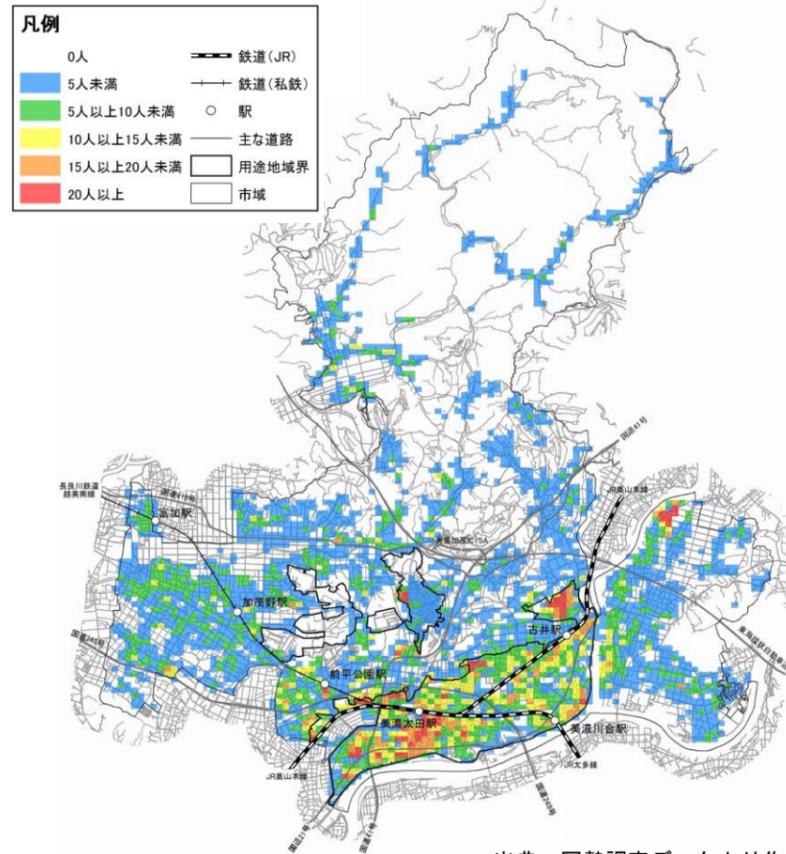
出典：将来人口・世帯予測プログラム(国土技術政策総合研究所)より推計  
図11 平成27年(2015年)～平成52年(2040年)人口増減率



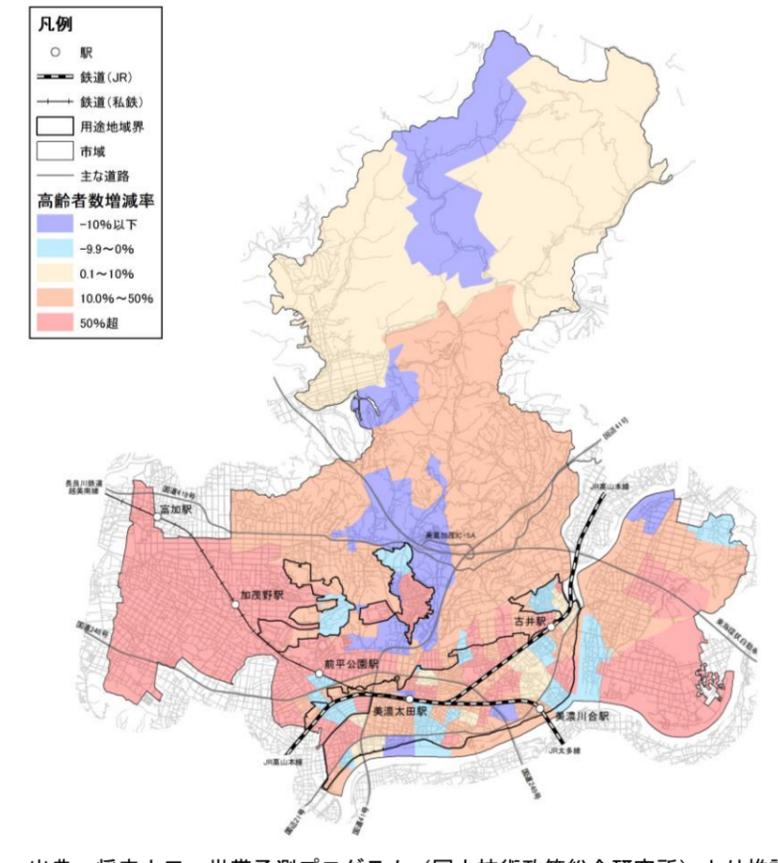
出典：国土数値情報  
図8 DIDの変遷



出典：国土数値情報  
図9 DID面積とDID人口密度の推移



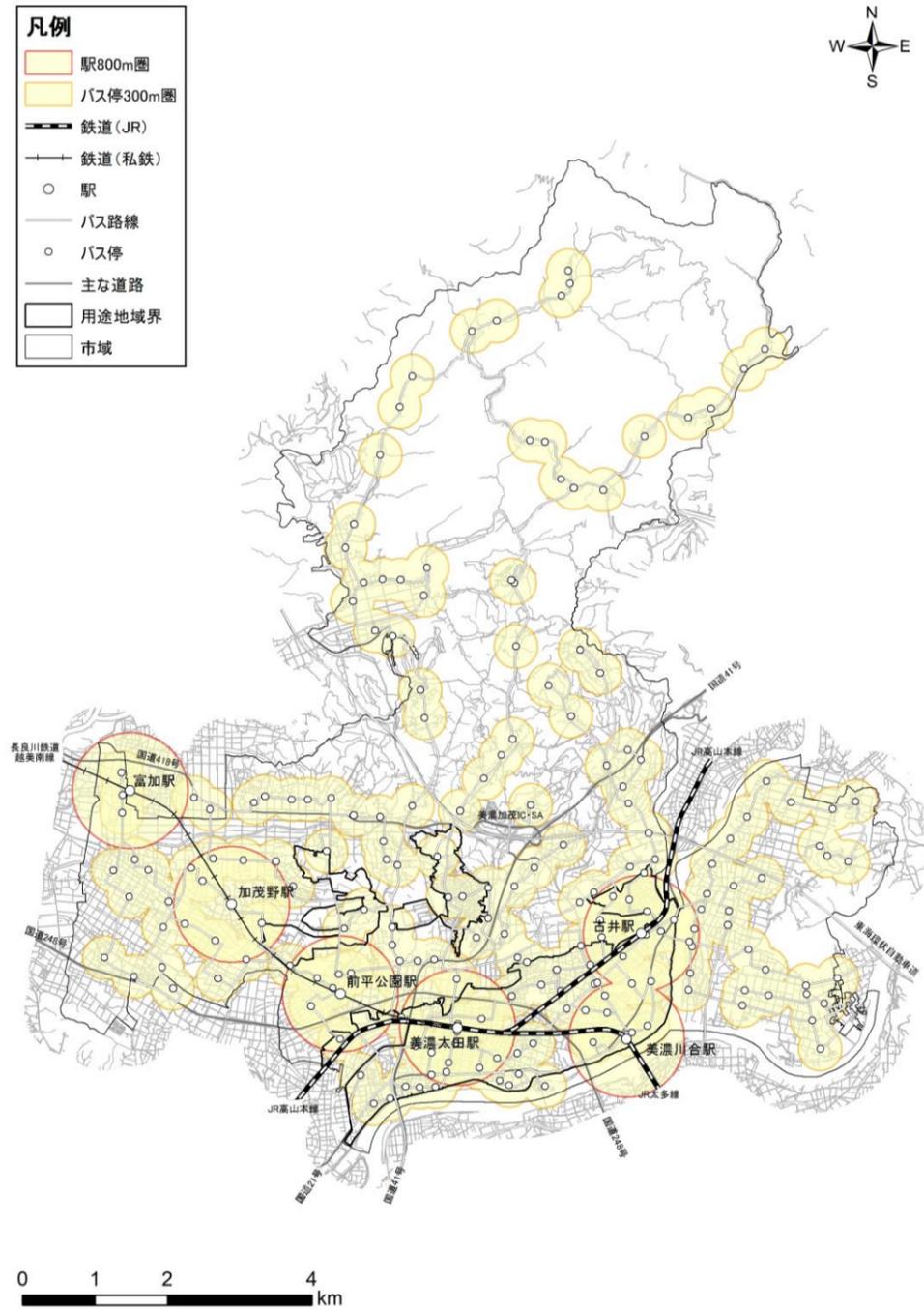
出典：国勢調査データより作成  
図12 100mメッシュ65歳以上人口分布(平成27年(2015年))



出典：将来人口・世帯予測プログラム(国土技術政策総合研究所)より推計  
図13 平成27年(2015年)～平成52年(2040年)65歳以上人口増減率

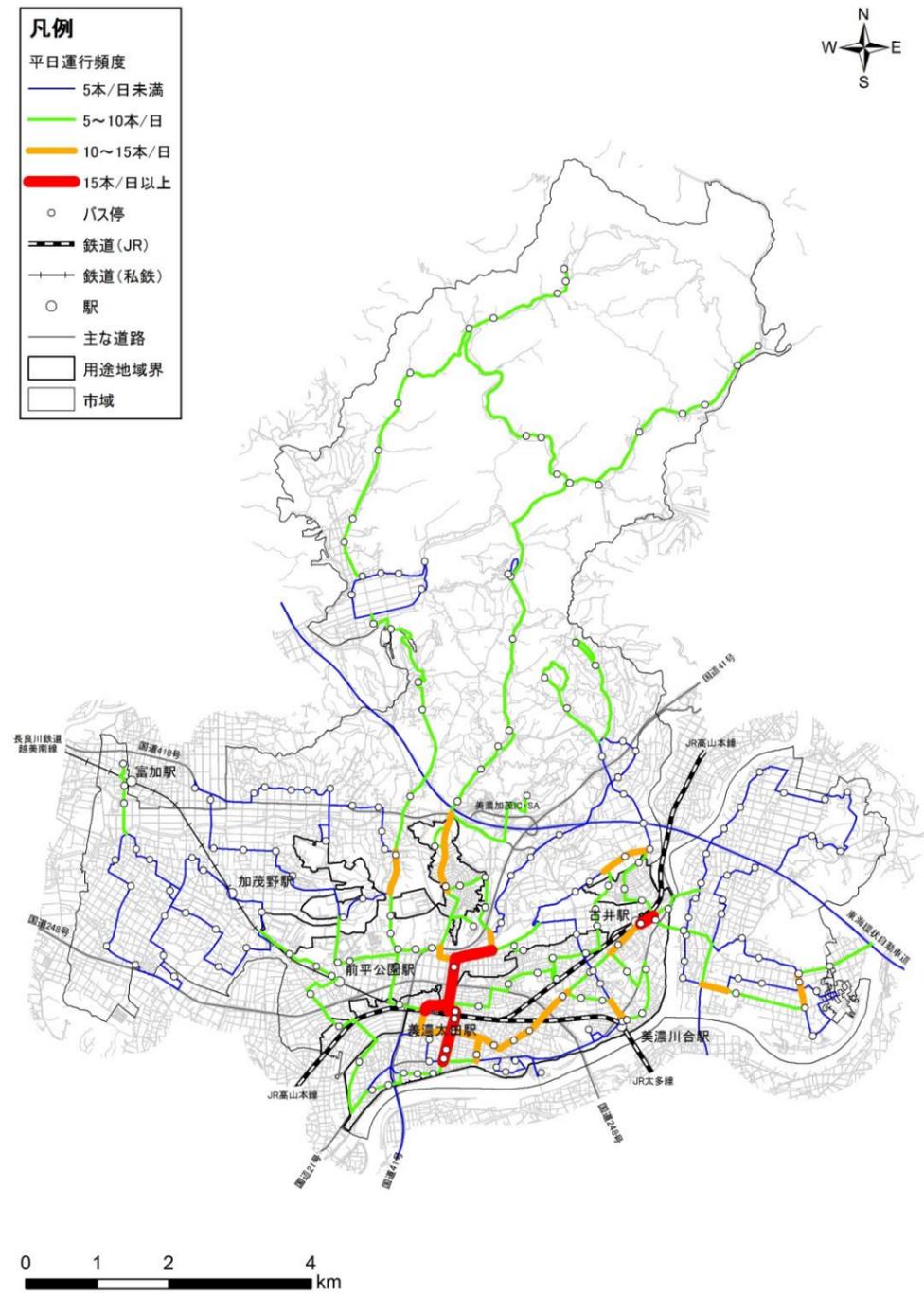
## (2) 公共交通

- 美濃加茂市の南部を東西へ横断する形で JR 高山本線が整備されており、南方の可児市、多治見市へは、JR 中央本線を結ぶ JR 太多線が整備されている。JR 高山本線と JR 太多線の駅として、市内には美濃太田駅、古井駅、美濃川合駅の 3 駅がある。美濃太田駅から北方の富加町、関市、美濃市、郡上市を結ぶ鉄道路線として長良川鉄道越美南線がある。
- 路線バスは、東鉄バス百津線とコミュニティバスである「あい愛バス」が運行しており、居住地を広くカバーしている。
- 運行頻度は 1 日片道 10 本未満の路線が多いが、美濃太田駅南側から駅北商業団地までは比較的運行に運行頻度が高い。



出典：国土数値情報, 東鉄バス HP, あい愛バス HP

図 14 駅勢圏、バス停勢圏の状況



出典：東鉄バス HP, あい愛バス HP

図 15 路線バスの運行頻度（片道）

●鉄道の状況

- ・鉄道の利用者数は平成 25 年まで減少傾向にあったが、平成 26 年以降増加に転じている。
- ・JR美濃川合駅や長良川鉄道の前平公園駅や加茂野駅では乗車人員が増加傾向にある。

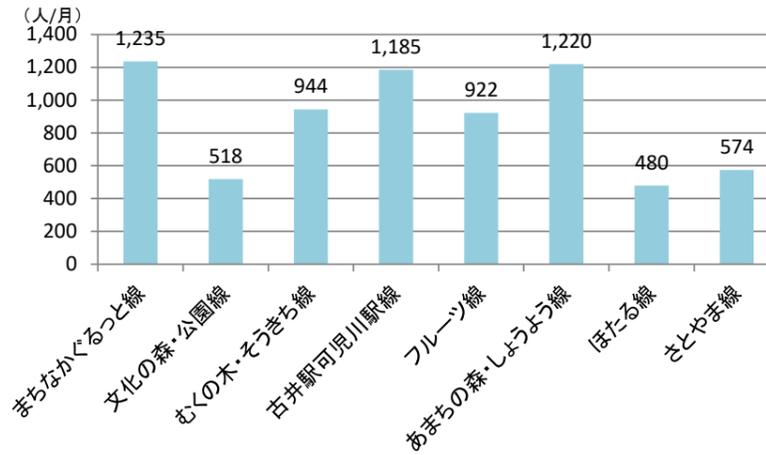


出典：美濃加茂市統計書

図 16 鉄道の利用者数の推移

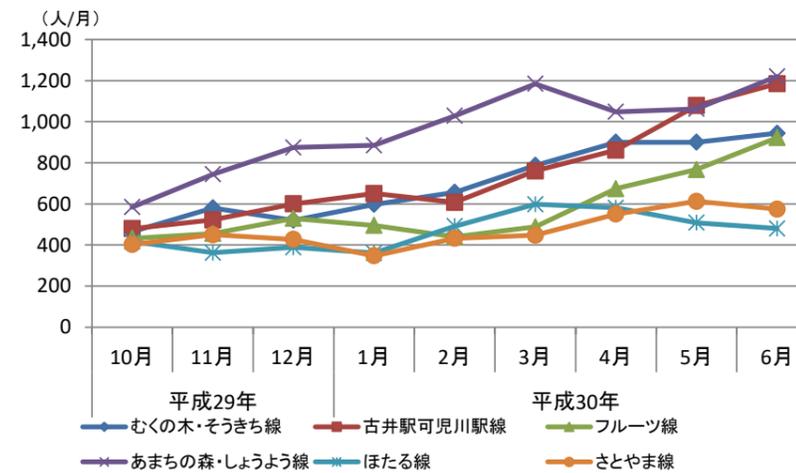
●あい愛バスの状況

- ・あい愛バスの乗客数は「まちなかぐるっと線」「古井駅可児川駅線」「あまちの森・しょうよう線」の利用者が多く、いずれも 1 便あたり 4 ~ 5 人程度利用されている。一方、「ほたる線」「文化の森・公園線」「さとやま線」の利用者は少ない。
- ・経年的に見るといずれの路線も認知度の向上とともに利用者が増加しているが「ほたる線」や「さとやま線」の伸び率は低い。



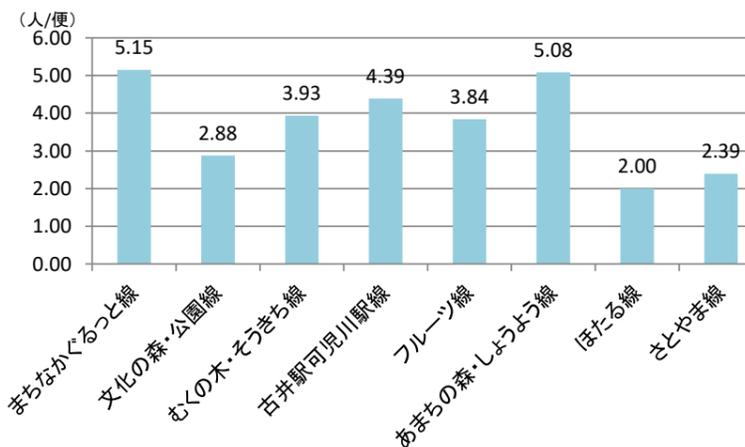
出典：担当課資料

図 17 あい愛バス月間乗客数(平成 30 年 6 月)



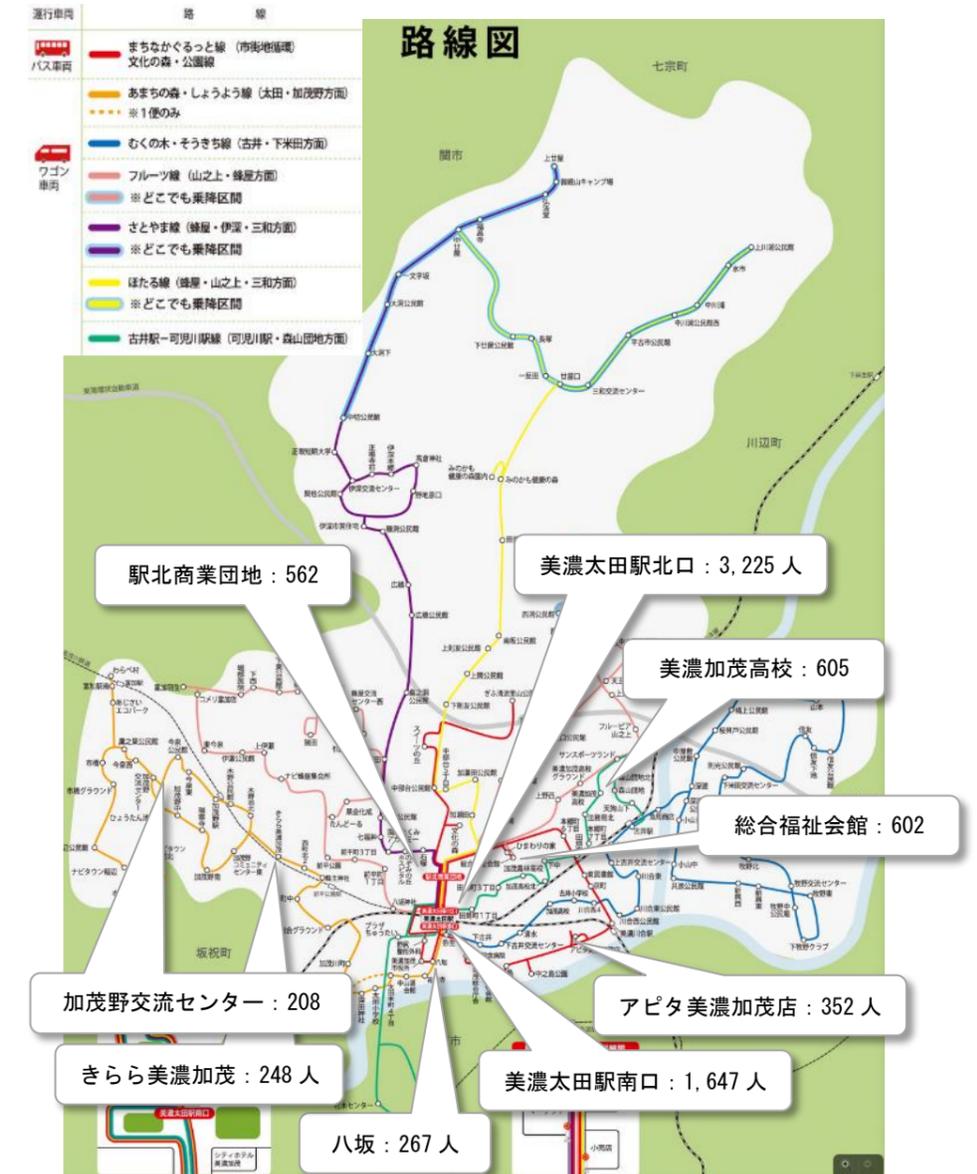
出典：担当課資料

図 18 あい愛バス月間乗客数の推移



出典：担当課資料

図 19 あい愛バス 1 便あたり乗客数



出典：あい愛バスHP、担当課資料

図 20 あい愛バス路線図、乗降客数 200 人/月以上のバス停(平成 30 年 6 月実績)

### (3) 生活利便施設

- 商業施設は大規模小売店舗が大半で小規模なスーパーは少ない。大規模小売店舗は美濃太田駅北側の用途地域外に集積している。その他、市の南部に分散して複数立地しているが、加茂野地区は徒歩圏内に大規模小売店舗や小規模スーパーがない地域が広がっている。
- 小売業年間販売額は美濃太田駅北側の大規模小売店舗が集積しているエリアや美濃川合駅西側で高くなっており、美濃太田駅南側の古くからの商業地はそれらのエリアに比べると低い。
- 医療施設は、美濃太田駅周辺に病院が複数立地している。診療所は市内に分散して立地しているが、用途地域が指定されていない地域は立地密度が低い。

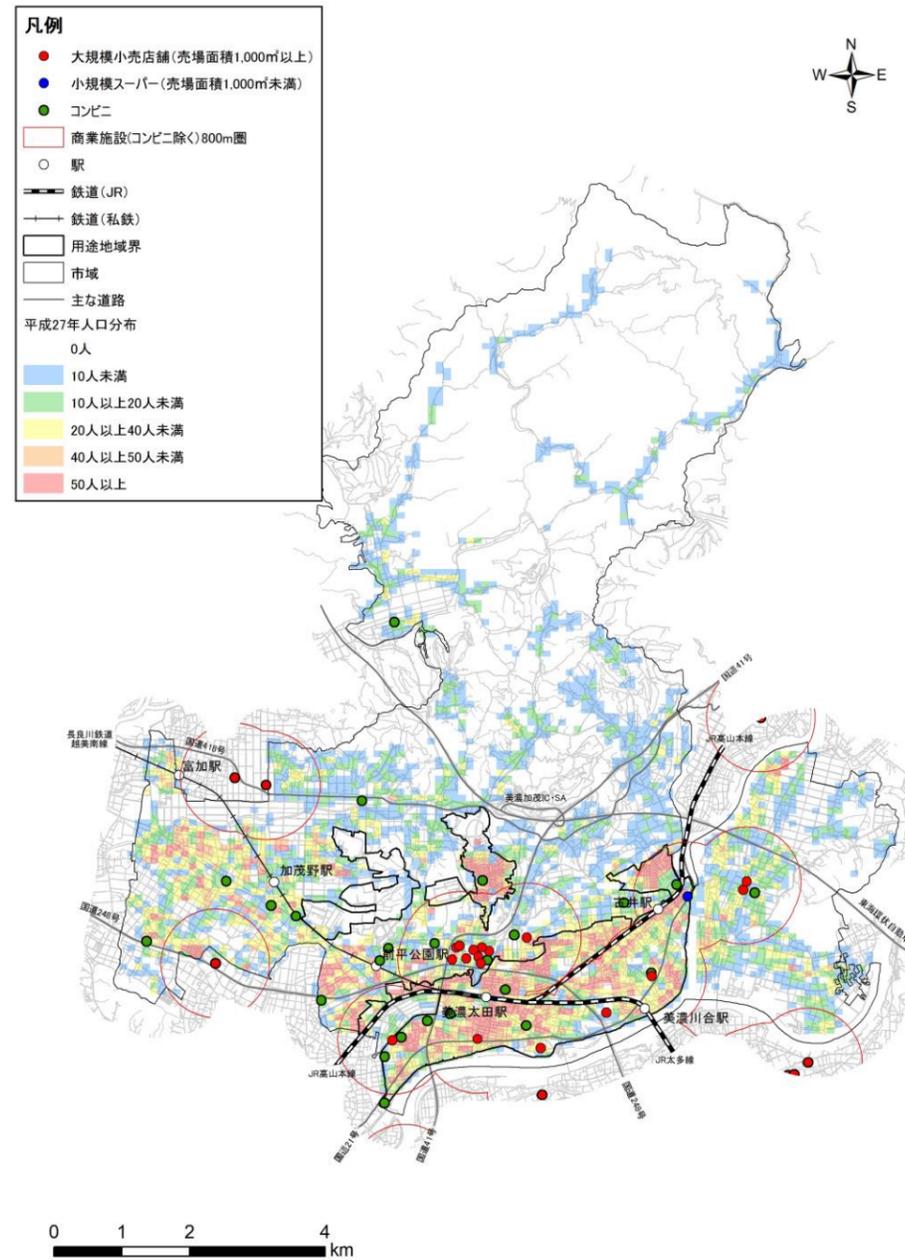


図 21 商業施設の立地状況

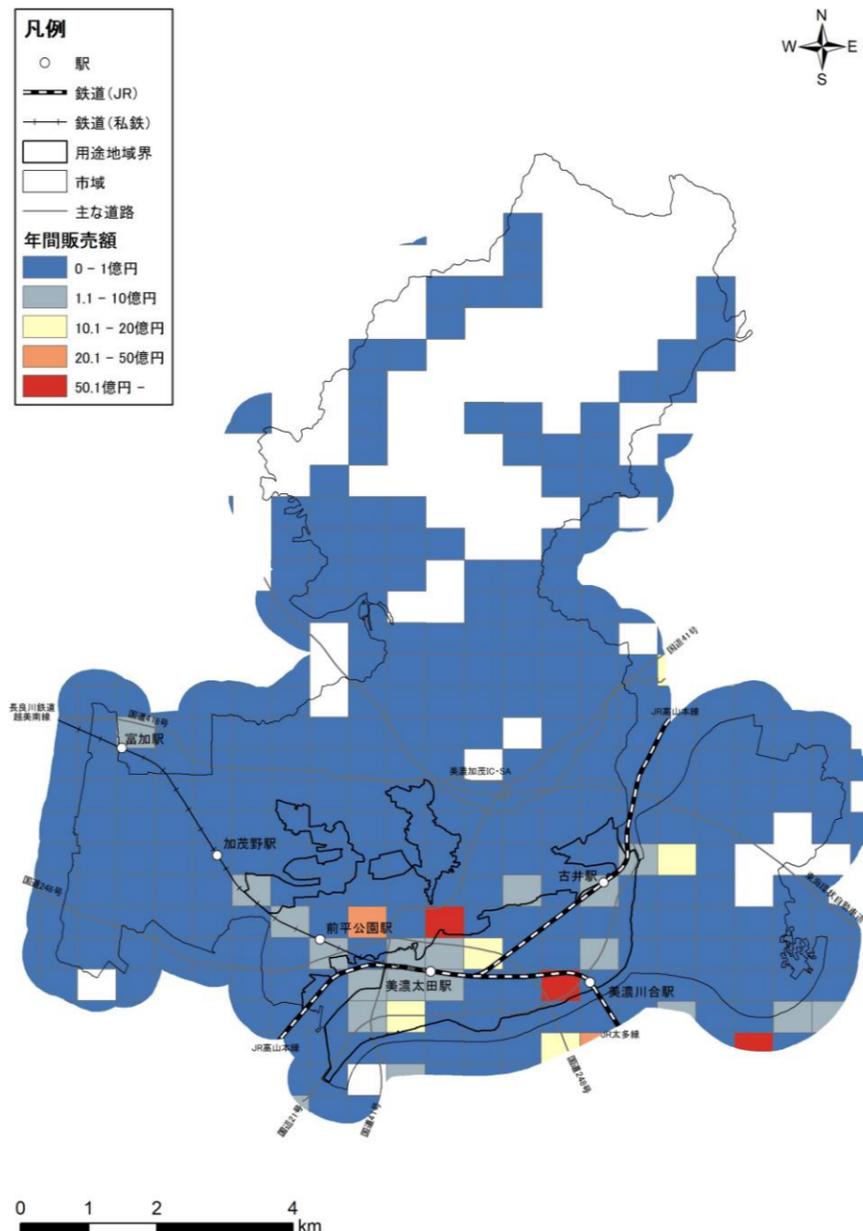


図 22 小売業年間販売額

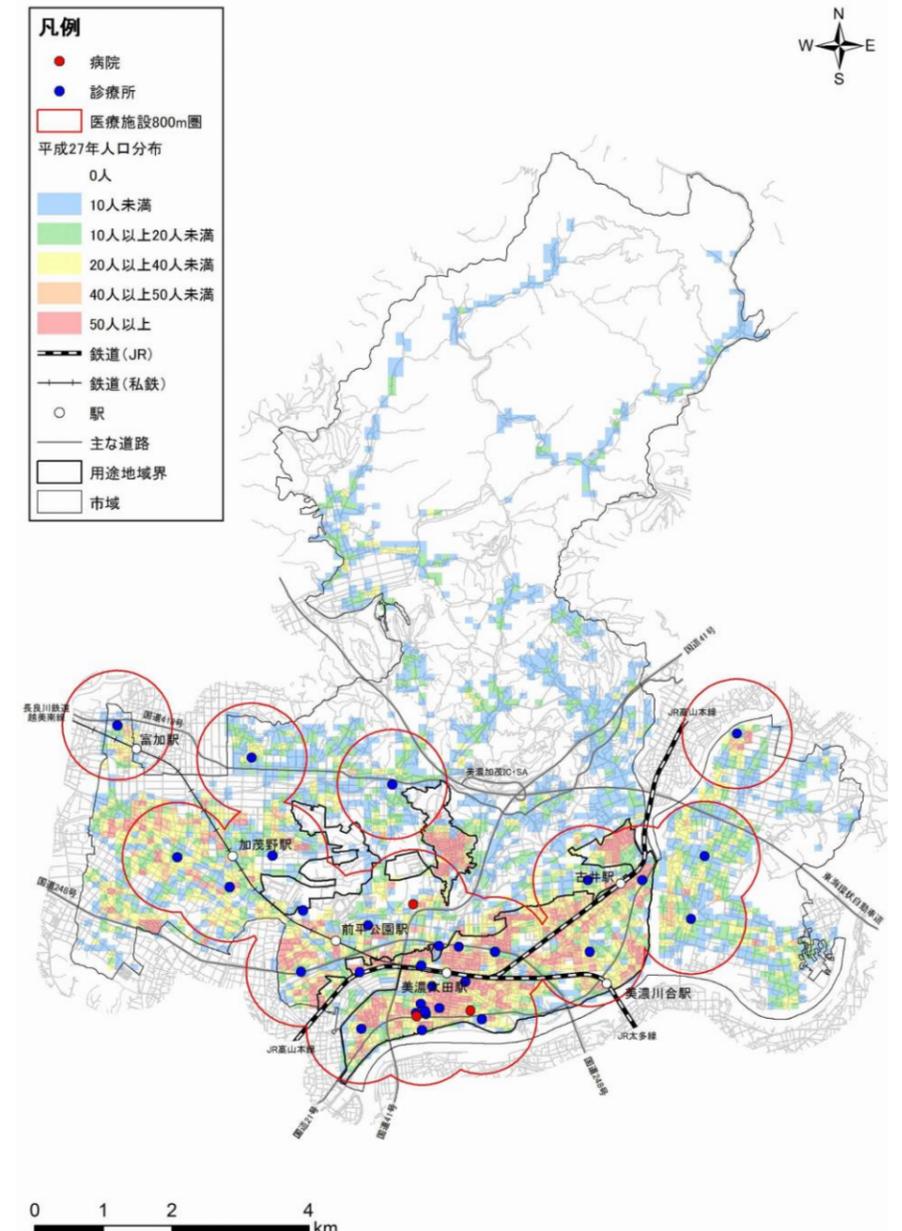


図 23 医療施設(内科を含む病院、診療所)の立地状況

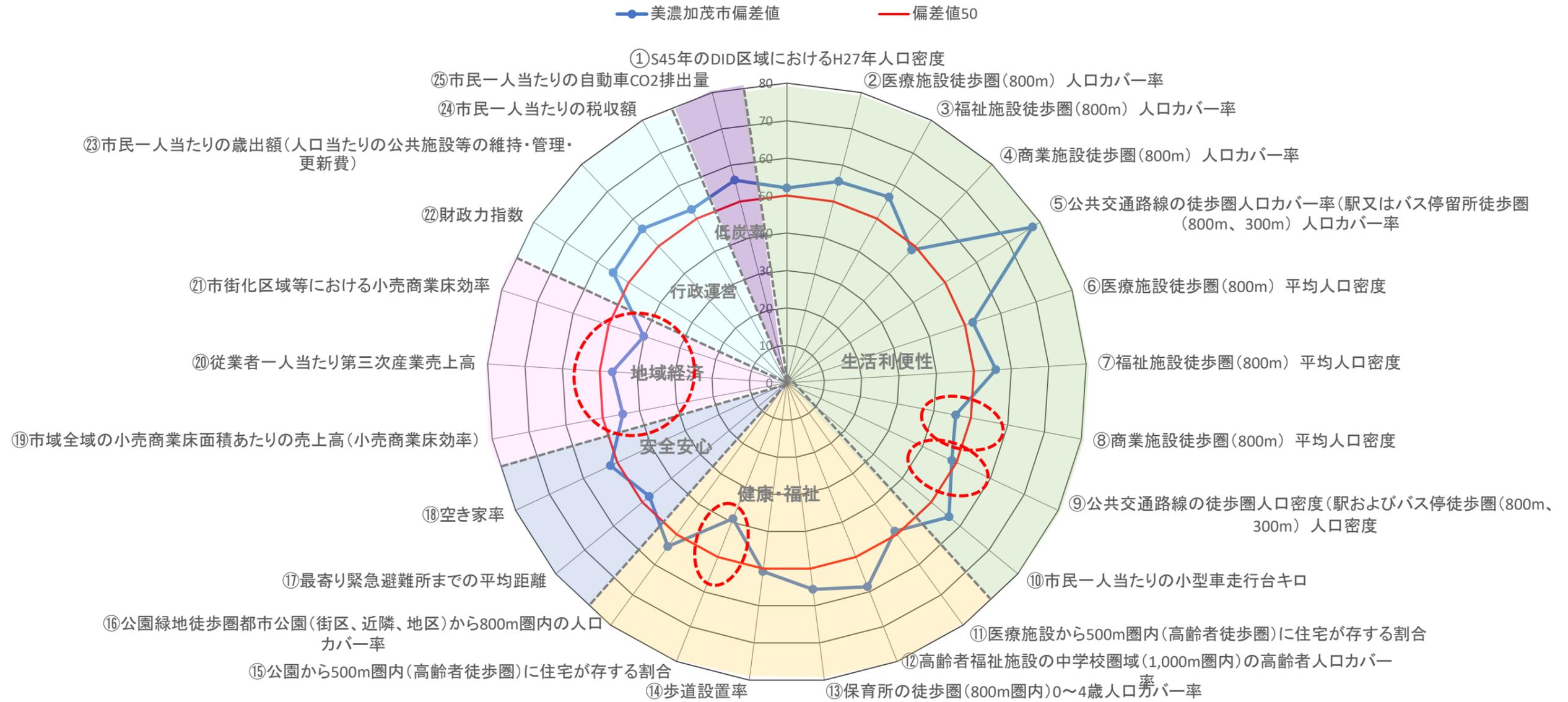
※大規模小売店舗とは大店立地法に基づき届出が出されている店舗(売場面積が1000平方メートルを超えるもの)、小規模スーパー、コンビニとは大規模小売店舗以外でiタウンページでスーパーあるいはコンビニとして分類されている店舗  
 出典：(大規模小売店舗)平成29年都市計画基礎調査、(小規模スーパー)iタウンページ

出典：平成26年商業統計調査

※病院とは20人以上の入院施設を備える施設、診療所とは入院施設を有しない施設あるいは19人以下の入院施設を備える施設  
 出典：国土数値情報

(4) 都市構造の他都市比較

- 地域経済に関する指標や、生活利便に関する指標のうち商業施設の徒歩圏人口密度など、商業に関する指標が他都市と比較して低く、本市の弱みであると言える。
- 公共交通については、徒歩圏人口カバー率は高いものの、徒歩圏人口密度が低く、公共交通空白地は少ないが、効率性が低い(=コストがかかる)状況にある。
- 健康・福祉に関する指標のうち、公園から500m圏内に住宅が存する割合は偏差値50を切っている。



※岐阜県内の人口4万~20万人の都市(13都市: 美濃加茂市, 大垣市, 高山市, 多治見市, 関市, 中津川市, 羽島市, 恵那市, 土岐市, 各務原市, 可児市, 瑞穂市, 郡上市)での偏差値

※各指標とも基本的には値が高くなると偏差値が高くなるが、「⑩市民一人当たりの小型車走行台キロ」「⑰最寄り緊急避難所までの平均距離」「㉓市民一人当たりの歳出額(人口当たりの公共施設等の維持・管理・更新費)」「㉕市民一人当たりの自動車CO2排出量」については、値が低くなると偏差値が高くなるよう設定している。

出典: 国土交通省都市モニタリングシート(ただし、美濃加茂市の公共交通に関するデータのみ独自集計)

図24 人口規模が同程度の都市との都市構造比較(岐阜県内の人口4万~20万人の都市との比較)